

都市再生整備計画 事後評価シート  
JR 芦原温泉駅賑わい交流地区

令和7年3月

福井県あわら市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福井県		市町村名	あわら市		地区名	JR芦原温泉駅賑わい交流地区		面積	30.3ha		
交付期間	令和元年度～令和5年度		事後評価実施時期	令和6年度		交付対象事業費	3,311百万円	国費率	0.497			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路[市道105号線、市道105号線(電線共同溝)、市道1117号線、市道171号線]、地域生活基盤施設[西口広場、東口広場、駅西口駐車場]、高質空間形成施設[照明施設]、高次都市施設[賑わいホール(地域交流センター)]、観光案内・魅力体感施設[観光交流センター]									
		提案事業	事業活用調査[事業効果分析]、まちづくり活動推進事業[ワークショップ(駅周辺西口部)]									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	①高質空間形成施設[照明施設] ②道路[市道1117号線]	削除/追加の理由	①県と協議の上、県事業として照明施設の整備を行うこととなったため、事業を削除。 ②事業再検討の結果、散水量等を考慮し、融雪設備の整備を取りやめたため、事業を削除。					削除/追加による目標、指標、数値目標への影響	①県事業として実施されるため、指標への影響は生じない。 ②指標への影響は生じない。	
		提案事業	なし	-						-		
	新たに追加した事業	基幹事業	①地域生活基盤施設[駅西口自転車駐車場] ②優良建築物等整備事業[駅西口エリア(民有地)] ③街なみ環境整備事業[街なみ修景事業] ④地域生活基盤施設[東西自由通路] ⑤道路[市道830号線] ⑥道路[市道170号線] ⑦地域生活基盤施設[東口自転車駐車場]	削除/追加の理由	①車の利用者だけでなく、自転車利用者にとっても通勤・通学等の駅利用の利便性を向上させるため、事業を追加。 ②駅西口の民有地における土地の有効活用や賑わい創出を図ることを目的とし、民間事業者の積極的な進出を促進するため、事業を追加。 ③北陸新幹線芦原温泉駅開業に向け、魅力あるまちづくりのため景観ガイドラインを作成した。良好な景観を実現するための事業を実施し、統一感のある景観を創出し、JR芦原温泉駅周辺の回遊性を生み出すため、事業を追加。 ④新幹線駅の整備に伴い、東西口を結び、賑わい施設(観光交流センター)と連結する自由通路を整備することで回遊性の高い人の流れを創り出すことができるため、事業を追加。 ⑤駅への利便性等を向上させるため、事業を追加。 ⑥東口広場整備に隣接道路として、駅への利便性等を向上させるため、事業を追加。 ⑦駅東口の利用者のために自転車駐輪場を整備し、駅への利便性等を向上させるため、事業を追加。					削除/追加による目標、指標、数値目標への影響	①③④⑤⑥⑦指標への影響は生じない。 ②駅周辺整備と併せて、指標「駅周辺整備に関する満足度」の目標値を50%から55%に上方修正する。	
		提案事業	①まちづくり活動推進事業[まちづくりPR活動]	削除/追加の理由	①北陸新幹線芦原温泉駅開業に向け、機運を高めるための曲を作成するため、事業を追加。					削除/追加による目標、指標、数値目標への影響	①指標への影響は生じない。	
	交付期間の変更	当初	令和元年度～令和5年度	変更	-		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-			

	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	駅前商店街の空き店舗数	店	5	H30	3	R5	-	2	○	あり なし	駅前商店街の空き店舗数は、街なみ修景補助などの効果、新幹線開業に向けた期待感の高まりが主な要因となって目標を達成した。	-
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標2	駅周辺整備に関する満足度	%	5	H30	55	R5	-	10	△	あり なし	● 駅周辺整備に関する満足度は、北陸新幹線の開業が1年遅れたことで、アンケート期間中に新幹線が開業することになったため、期待していた事業効果を十分に発揮できなかったことが主な原因となって目標未達成となった。 ただし、新幹線開業に向けた駅周辺整備の進展に伴い一定の改善は見られた。	-
	指標3	JR芦原温泉駅乗降客数	人/日	3,600	H30	5,000	R5	-	3,038	×	あり なし	● 芦原温泉駅の乗降客数は、新型コロナウイルス感染症の影響で大幅に減少した後、回復傾向にあるものの、新幹線の開業が1年遅れたことで、交通結節機能の整備や駅前の魅力や価値を高める事業が効果を発揮できなかったことが原因となって目標未達成となった。	-
	指標4	駅前広場利用者数	人/年	-	-	65,000	R5	-	910,490	○	あり なし	駅前広場利用者数は、交通結節点機能が整ったことやアフレアが整備され、様々なイベントが行われたことが主な要因となって目標を達成した。	-
	3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
	その他の数値指標1		基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期			
4)定性的な効果発現状況	<p>・北陸新幹線金沢・敦賀間開業に向けて芦原温泉駅周辺で実施されてきた各種事業の進展や新幹線開業への期待感の高まりなどを背景に地価の上昇がみられた。          ・北陸新幹線開業に先駆けて令和5年3月19日にオープンした「芦原温泉駅西口賑わい施設アフレア」では、新幹線開業までの間、まちづくりフォーラムやグルメ・スポーツイベントなどを開催し、新幹線開業に向けた市民のまちづくり機運の高揚、駅周辺の賑わいづくりに貢献した。また、新幹線開業後も子どもが対象の、食や音楽等をテーマとしたイベントなど、幅広いイベントを開催し、駅周辺の賑わいや交流の創出に継続的に取り組んでいる。</p>												
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	-			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-				
	官民連携による取組	・芦原温泉駅まちづくりデザイン部会の活動支援を通じて、賑わいホール及び観光案内・魅力体感施設の計画内容等について意見交換を行った。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 民間企業や市民活動団体などが主体となって実施する地域活性化に係る取組を支援する。				
	持続的なまちづくり体制の構築	<p>・一般社団法人アフレアは令和4年10月に設立され、芦原温泉駅西口賑わい施設アフレアの施設全体の運営・維持管理を担っている。            同法人の理事会は、あわら市、あわら市商工会、あわら市観光協会、(一社)あわら市まちづくりセンター、芦原温泉旅館協同組合、地元自治会などのメンバー※で構成されており、アフレアを核とした駅周辺の賑わいづくりに地域一丸となって取り組んでいる。</p> <p>※令和6年度時点            ・(一社)あわら市まちづくりセンターや金津まちなか創成会、(一社)MYNKsなど様々な団体と行政が連携し、アフレアや芦原温泉駅周辺においてイベント等の企画に取り組んでいる。</p>			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 人々の交流を促し、地域の活気やにぎわいを創出するため、イベントなどを継続的に開催する。				

## 様式2-2 地区の概要

JR芦原温泉駅賑わい交流地区(福井県あわら市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標 北陸新幹線芦原温泉駅の現駅併設を見据え、定住環境の向上を図りながら、市民と来訪者が集い、ともに憩えるエリアとして駅周辺にさらなる賑わいを創出する。 目標1: 交通結節点、魅力情報発信の機能強化 目標2: 安心で安全な人にやさしい街・道路の整備 目標3: 地域内のコミュニティ活動の促進	駅前商店街の空き店舗数	単位: 店	5 H30	3 R5	2 R5
	駅周辺整備に関する満足度	単位: %	5 H30	55 R5	10 R5
	JR芦原温泉駅乗降客数	単位: 人/日	3,600 H30	5,000 R5	3,038 R5
	駅前広場利用者数	単位: 人/年	-	65,000 R5	910,490 R5



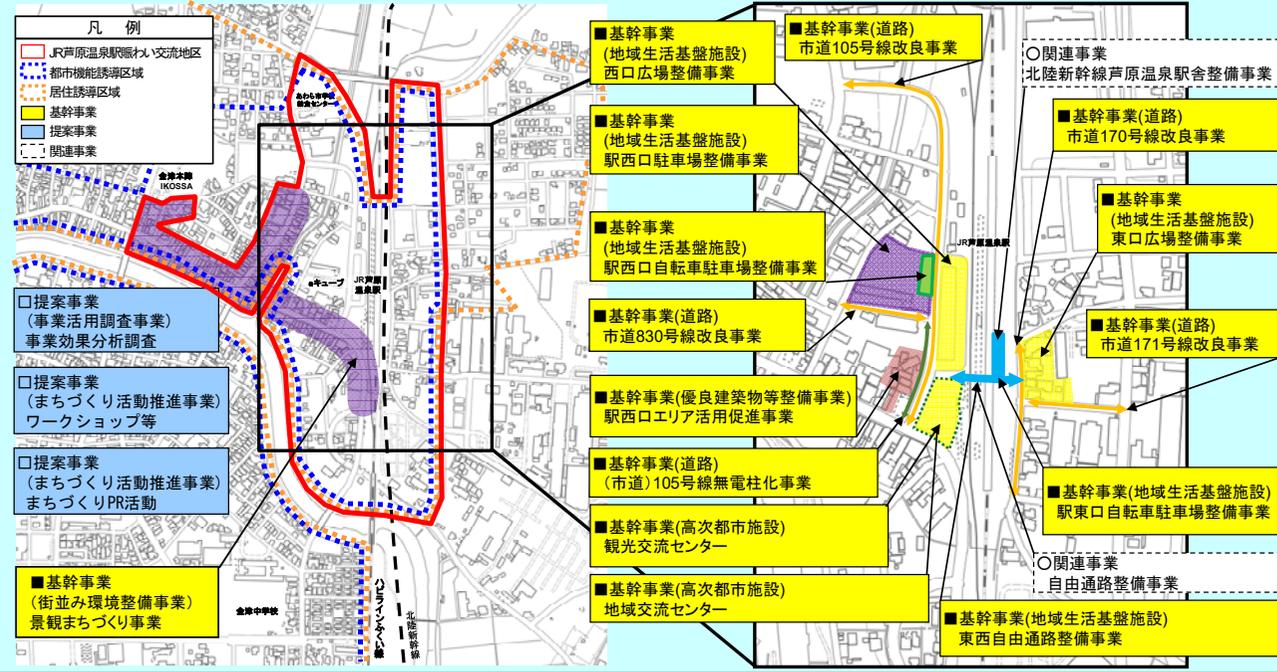
▲道路: 市道105号線改良事業



▲高次都市施設: 観光交流センター



▲高次都市施設: 地域交流センター



**凡例**

- JR芦原温泉駅賑わい交流地区
- 都市機能誘導区域
- 居住誘導区域
- 基幹事業
- 提案事業
- 関連事業

**基幹事業 (地域生活基盤施設)**

- 西口広場整備事業
- 駅西口駐車場整備事業
- 駅西口自転車駐車場整備事業
- 駅西口エリア活用促進事業
- 地域交流センター

**基幹事業 (道路)**

- 市道105号線改良事業
- 市道830号線改良事業
- (市道)105号線無電柱化事業
- 市道170号線改良事業
- 市道171号線改良事業

**基幹事業 (高次都市施設)**

- 観光交流センター
- 地域交流センター

**提案事業**

- (事業活用調査事業) 事業効果分析調査
- (まちづくり活動推進事業) ワークショップ等
- (まちづくり活動推進事業) まちづくりPR活動

**関連事業**

- 北陸新幹線芦原温泉駅舎整備事業
- 自由通路整備事業



▲地域生活基盤施設: 東口広場整備事業



▲道路: 市道171号線改良事業



▲地域生活基盤施設: 東西自由通路整備事業

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アフレアを中心に、駅構内や自由通路などで魅力発信を行っているが、集客や賑わいがアフレア内に留まっており、地域一帯の活性化を図る必要がある。</li> <li>・依然として空き店舗は残っており、加えて高齢化などにより建物が空き家・空き店舗になるケースもあることから、それらの利活用に引き続き取り組む必要がある。</li> <li>・地域内のまちづくり活動を今以上に発展させていくためには、地域内の住民、商店街及びまちづくり団体などの各コミュニティの連携が必要となる。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通結節点機能の維持・充実</li> <li>・アフレアを中心とした賑わい・交流の創出</li> <li>・駅周辺の回遊性の向上</li> <li>・あわら市内や周辺地域の観光拠点と連携した広域観光の推進</li> <li>・安全安心な都市交通基盤の維持・充実</li> <li>・地元やまちづくり団体など多様な主体による景観まちづくりや賑わい創出の推進</li> <li>・空き家・空き店舗の利活用の促進</li> <li>・地域内の商店街やまちづくり団体等の連携強化</li> </ul>

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 官民連携による取組みの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		駅周辺整備に関する満足度:目標値50%	駅周辺整備に関する満足度:目標値55%	基幹事業である、西口広場の増額や優良建築物等整備事業[駅西口エリア(民有地)]を追加したため、上方修正する。
D. その他(区域)	●		対象区域:27.7ha	対象区域:30.3ha	北陸新幹線開業を控え、「福井県の北の玄関口」として魅力あるまちづくりが急務となっている。魅力的なまちにするため統一感のある景観を創出し、JR芦原温泉駅周辺の回遊性を促進させることになったため、区域の拡大を行う。

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道105号線	250	430m	811	430m	<p>【第1回変更】 道路線形の見直しにより、新たに用地買収及び物件補償が必要となり、事業費を増額</p> <p>【第2回変更】 詳細測量の結果、道路線形の確定により、新たに用地買収、物件補償及び橋梁工事が必要となり、事業費を増額</p> <p>【第4回変更】 調査の結果、橋梁工事において、施工方法に見直しが生じたため、事業費を増額</p> <p>【第5回変更】 資材単価及び人件費が高騰したことにより、発注金額が増額したため、事業費を増額</p> <p>【第6回変更】 表記を変更したため、事業費を増額</p>	<p>【第1回変更】 線形の変更のみであることから、指標への影響は生じない</p> <p>【第2回変更】 線形の確定であることから、指標への影響は生じない</p> <p>【第4回変更】 施工方法の見直しであることから、指標への影響は生じない</p> <p>【第5回変更】 物価高騰による増額であることから、指標への影響は生じない</p> <p>【第6回変更】 表記の変更であることから、指標への影響は生じない</p>	●	-
道路	市道105号線(電線共同溝)	110	72m	61.7	106m	<p>【第2回変更】 詳細測量の結果、事業費を減額</p> <p>【第4回変更】 工事完了による精算変更の結果、事業費を減額</p> <p>【第5回変更】 ハンドホール設置のための掘削土留め工法に変更が生じ、工事完了による精算変更の結果、事業費を増額</p> <p>【第6回変更】 表記を変更したため、事業費を減額</p>	<p>【第2回変更】 施工延長に変更がないため、指標への影響は生じない</p> <p>【第4回変更】 施工延長に変更がないため、指標への影響は生じない</p> <p>【第5回変更】 施工延長に変更がないため、指標への影響は生じない</p> <p>【第6回変更】 表記の変更であることから、指標への影響は生じない</p>	●	-
道路	市道1117号線	9	80m	-	-	<p>【第2回変更】 検討の結果、融雪装置を設置しないこととし、事業費を減額</p> <p>【第4回変更】 事業再検討の結果、散水量等を考慮し、融雪設備の整備を取りやめたため、事業を削除</p>	<p>【第2回変更】 工法変更のみであることから、指標への影響は生じない</p> <p>【第4回変更】 指標への影響は生じない</p>	-	-
道路	市道171号線	32	100m	70	100m	<p>【第2回変更】 詳細設計の結果、工法見直しが生じ、事業費を増額</p> <p>【第4回変更】 詳細設計の結果、工法見直しが生じ、事業費を増額</p> <p>【第5回変更】 試掘調査の結果、工法見直しが生じ、事業費を減額</p>	<p>【第2回変更】 工法変更のため、指標への影響は生じない</p> <p>【第4回変更】 工法変更のため、指標への影響は生じない</p> <p>【第5回変更】 工法変更のため、指標への影響は生じない</p>	●	-

道路	市道830号線	-	-	15.1	85m	<p>【第3回変更】 駅への利便性等を向上させるため、事業を追加</p> <p>【第4回変更】 工事完了による精算変更の結果、事業費を増額</p> <p>【第6回変更】 表記を変更したため、事業費を増額</p>	<p>【第3回変更】 指標への影響は生じない</p> <p>【第4回変更】 施工延長に変更がないため、指標への影響は生じない</p> <p>【第6回変更】 表記の変更であることから、指標への影響は生じない</p>	●	-
道路	市道170号線	-	-	25.6	100m	<p>【第4回変更】 東口広場整備に隣接道路として、駅への利便性等を向上させるため、事業を追加</p> <p>【第5回変更】 詳細設計の結果、工法見直しが生じ、事業費の減額</p> <p>【第6回変更】 工事完了による精算変更の結果、事業費を増額</p>	<p>【第4回変更】 東口交通広場と近接しているため、指標への影響は生じない</p> <p>【第5回変更】 工法の変更であるため、指標への影響は生じない</p> <p>【第6回変更】 精算変更の結果のため、指標への影響は生じない</p>	●	-
地域生活基盤施設	西口広場	89	3,540㎡	504.2	3,540㎡	<p>【第1回変更】 大雪等における駅利用者の安全性の確保を図るためシェルターを設置し、さらに西口駅前広場との調和や統一性を図ることで駅利用者の利便性を向上させるため、事業費を増額</p> <p>【第2回変更】 詳細設計の結果、工法見直しが生じ、事業費を減額</p> <p>【第5回変更】 工事完了による精算変更の結果、工法見直しが生じ、事業費を増額</p> <p>【第6回変更】 表記を変更したため、事業費を増額</p>	<p>【第1回変更】 指標「駅周辺整備に関する満足度」の目標値を50%から55%に上方修正する</p> <p>【第2回変更】 工法変更のため、指標への影響は生じない</p> <p>【第5回変更】 精算変更の結果のため、指標への影響は生じない</p> <p>【第6回変更】 表記の変更であることから、指標への影響は生じない</p>	●	-
地域生活基盤施設	東口広場	167	2,130㎡	275.4	2,130㎡	<p>【第4回変更】 詳細設計の結果、工法見直しが生じ、事業費を増額</p> <p>【第5回変更】 資材単価及び人件費が高騰したことにより、発注金額が増額したため、事業費を増額</p> <p>【第6回変更】 工事完了による精算変更の結果、事業費を減額</p>	<p>【第4回変更】 事業手法が変更になったことによるため、指標への影響は生じない</p> <p>【第5回変更】 物価高騰による増額のため、指標への影響は生じない</p> <p>【第6回変更】 精算変更の結果のため、指標への影響は生じない</p>	●	-

地域生活基盤施設	駅西口駐車場	191	4,600㎡	142.3	4,679㎡	<p>【第1回変更】 駐車場用地の見直しにより、事業費を減額</p> <p>【第2回変更】 詳細設計の結果、工法見直しが生じ、事業費を減額</p> <p>【第4回変更】 工事完了による精算変更の結果、事業費を減額</p> <p>【第6回変更】 表記を変更したため、事業費を減額</p>	<p>【第1回変更】 駐車台数等に変更がないため、指標への影響は生じない</p> <p>【第2回変更】 工法変更のため、指標への影響は生じない</p> <p>【第4回変更】 精算変更の結果のため、指標への影響は生じない</p> <p>【第6回変更】 表記の変更であることから、指標への影響は生じない</p>	●	-
地域生活基盤施設	駅西口自転車駐車場	-	-	42.9	241㎡	<p>【第1回変更】 車の利用者だけでなく、自転車利用者にとっても通勤・通学等の駅利用の利便性を向上させるため、事業を追加</p> <p>【第2回変更】 詳細設計の結果、工事内容の見直しが生じ、事業費を増額</p> <p>【第4回変更】 工事完了による精算変更の結果、事業費を減額</p> <p>【第6回変更】 表記を変更したため、事業費を減額</p>	<p>【第1回変更】 西口立体駐車場の整備により、駅周辺のアクセス性が保たれるため、指標への影響は生じない</p> <p>【第2回変更】 工事内容の見直しのため、指標への影響は生じない</p> <p>【第4回変更】 精算変更の結果のため、指標への影響は生じない</p> <p>【第6回変更】 表記の変更であることから、指標への影響は生じない</p>	●	-
地域生活基盤施設	東西自由通路	-	-	181.4	120m	<p>【第3回変更】 新幹線駅の整備に伴い、東西口を結び、賑わい施設(観光交流センター)と連結する自由通路を整備することで回遊性の高い人の流れを創り出すことができるため、事業を追加</p> <p>【第4・5回変更】 詳細設計の結果、工法見直しが生じ、事業費を減額</p> <p>【第6回変更】 工事完了による精算変更の結果、事業費を減額</p>	<p>【第3回変更】 市道105号線等の整備により、駅周辺のアクセス性が保たれるため、指標への影響は生じない</p> <p>【第4・5回変更】 工法変更のため、指標への影響は生じない</p> <p>【第6回変更】 精算変更の結果のため、指標への影響は生じない</p>	●	-
地域生活基盤施設	駅東口自転車駐車場	-	-	9	208㎡	<p>【第4回変更】 駅東口のユーザーのために自転車駐輪場を整備し、駅への利便性等を向上させるため、事業を追加</p> <p>【第5回変更】 土地所有者である鉄道運輸機構との協議により、事業用地を買収する必要が生じたため、事業費を増額</p> <p>【第6回変更】 工事完了による精算変更の結果、事業費を減額</p>	<p>【第4回変更】 東口交通広場と近接しているため、指標への影響は生じない</p> <p>【第5回変更】 施工範囲に変更が無いため、指標への影響は生じない</p> <p>【第6回変更】 精算変更の結果のため、指標への影響は生じない</p>	●	-
高質空間形成施設	照明施設	17	720m	-	-	<p>【第1回変更】 県と協議の上、県事業として照明施設の整備を行うこととなったため、事業を削除</p>	<p>【第1回変更】 県事業として実施されるため、指標への影響は生じない</p>	-	-

高次都市施設	賑わいホール(地域交流センター)	697	900㎡	629.7	640㎡	<p>【第2回変更】 詳細設計の結果、対象外面積等が確定したため、事業費を減額</p> <p>【第4回変更】 詳細設計の結果、工法見直しが生じ、事業費を減額</p> <p>【第5回変更】 事業精査の結果、対象面積に変更が生じ、事業費を減額</p> <p>【第6回変更】 表記を変更したため、事業費を増額</p>	<p>【第2回変更】 地域交流センターの機能に変更がないため、指標への影響は生じない</p> <p>【第4回変更】 施設の規模等に変更がないため、指標への影響は生じない</p> <p>【第5回変更】 施設の規模等に変更がないため、指標への影響は生じない</p> <p>【第6回変更】 表記の変更であることから、指標への影響は生じない</p>	●	-
高次都市施設	観光案内・魅力体感施設(観光交流センター)	392	506㎡	453.9	433㎡	<p>【第2回変更】 詳細設計の結果、対象外面積等が確定したため、事業費を減額</p> <p>【第4回変更】 詳細設計の結果、工法見直しが生じ、事業費を減額</p> <p>【第5回変更】 事業精査の結果、対象面積に変更が生じ、事業費を減額</p> <p>【第6回変更】 表記を変更したため、事業費を増額</p>	<p>【第2回変更】 観光交流センターの機能に変更がないため、指標への影響は生じない</p> <p>【第4回変更】 施設の規模等に変更がないため、指標への影響は生じない</p> <p>【第5回変更】 施設の規模等に変更がないため、指標への影響は生じない</p> <p>【第6回変更】 表記の変更であることから、指標への影響は生じない</p>	●	-

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
優良建築物等 整備事業	駅西口エリア(民有地)	-	-	1,300	1,023㎡	<p>【第1回変更】 駅西口の民有地における土地の有効活用や賑わい創出を図ることを目的とし、民間事業者の積極的な進出を促進するため、事業を追加</p> <p>【第2回変更】 地権者との交渉や新型コロナウイルスの影響があり、工程に遅れが生じたため、事業期間を変更 設計等を行った結果、新たな建物除却費等が必要となるため、事業費を増額</p> <p>【第4回変更】 工事完了による精算変更の結果、事業費を減額</p> <p>【第6回変更】 表記を変更したため、事業費を減額</p>	<p>【第1回変更】 指標「駅周辺整備に関する満足度」の目標値を50%から55%に上方修正する</p> <p>【第2回変更】 建物除去費等の変更のため、指標への影響は生じない</p> <p>【第4回変更】 精算変更の結果のため、指標への影響は生じない</p> <p>【第6回変更】 表記の変更であることから、指標への影響は生じない</p>	●	-
街なみ環境整備 事業	街なみ修景事業	-	-	28.8	12棟	<p>【第2回変更】 良好な景観を実現するための事業をし、統一感のある景観を創出し、JR芦原温泉駅周辺の回遊性を生み出すため、事業を追加</p> <p>【第4回変更】 当該地区のアンケートの結果、事業費の減額</p> <p>【第5回変更】 補助金申請額が想定額に達していないため、各年度の配分を見直し事業期間を延長</p> <p>【第6回変更】 補助金申請額が想定額を上回ったため、事業費を増額</p>	<p>【第2回変更】 対象区域全域の景観補助でないため、指標への影響は生じない</p> <p>【第4回変更】 駅周辺整備工事に変更がないため、指標への影響は生じない</p> <p>【第5回変更】 駅周辺整備工事に変更がないため、指標への影響は生じない</p> <p>【第6回変更】 駅周辺整備工事に変更がないため、指標への影響は生じない</p>	●	-

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
事業活用調査	事業効果分析	2	-	2.2	-	【第5回変更】 人件費が高騰したことにより、発注金額が増額したため、事業費を増額	【第5回変更】 物価高騰による増額であることから、指標への影響は生じない	●	-
まちづくり 活動推進事業	ワークショップ(駅周辺西口部)	4	-	4.0	-	【第5回変更】 委託内容の見直しに伴い、事業費を減額	【第5回変更】 活動内容に変更は無いため、指標への影響は生じない	●	-
	まちづくりPR活動	-	-	0.4	-	【第2回変更】 北陸新幹線芦原温泉駅開業に向け、機運を高めるための曲を作成するため、事業を追加 【第6回変更】 表記を変更したため、事業費を減額	【第2回変更】 指標への影響は生じない 【第6回変更】 表記の変更であることから、指標への影響は生じない	●	-

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
北陸新幹線芦原温泉駅舎整備		芦原温泉駅舎	-	9,229	H24～R4	H24～R5	完了	
自由通路整備		市道829号線	2,355	1,526	H29～R4	H29～R4	完了	最終事業費は道路事業分のみを記載

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2	1年以内の 達成見込みの 有無		
			基準 年度		基準 年度		目標 年度				あり	なし		
指標1	駅前商店街の空き店舗数	店	令和6年4月に駅前商店街の空き店舗数を現地調査により計測する。交付期間は終了しているため、計測した空き店舗数を評価値(確定値)とする。	-	-	5	H30	3	R5	モニタリング		モニタリング	-	-
										事後評価	確定 ● 見込み	2		
指標2	駅周辺整備に関する満足度	%	令和6年6月頃に公表予定の「令和5年度あわら市民アンケート報告書」にある、駅周辺のまちづくりを評価する設問を用いて満足度を計測する。アンケート調査票は年度末に配布しており、その時点では交付対象事業はほぼ完了しているため、計測した満足度を評価値(確定値)とする。	-	-	5	H30	55	R5	モニタリング		モニタリング		●
										事後評価	確定 ● 見込み	10		
指標3	JR芦原温泉駅乗降客数	人/日	JR西日本が公表する令和5年度の乗車人員を把握する。交付期間は終了しているため、計測した乗車人員を乗降客数に換算して評価値(確定値)とする。	3,536	H24	3,600	H30	5,000	R5	モニタリング		モニタリング		●
										事後評価	確定 ● 見込み	3,038		
指標4	駅前広場利用者数	人/年	JR芦原温泉駅西口賑わい施設「アフレア」(賑わいホール及び観光案内・魅力体感施設)の指定管理者である一般社団法人アフレアが計測する令和5年度の利用者数を把握する。交付期間は終了しているため、把握した利用者数を評価値(確定値)とする。	-	-	-	-	65,000	R5	モニタリング		モニタリング	-	-
										事後評価	確定 ● 見込み	910,490		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	駅前商店街の空き店舗数を現地調査したところ、平成30年計測時点に確認された空き店舗5店舗のうち3店舗が現在活用されている。これより空き店舗が2店舗となり、目標値3店舗を上回ったため、目標達成度は「○」とする。	-
指標2	駅周辺のまちづくりに対しての満足度について集計した結果、10%となり目標値を達成できなかった。一方で、従前値は上回っていることから改善が見られると判断し、目標達成度は「△」とする。	-
指標3	令和5年度のJR芦原温泉駅の乗降客数を集計した結果、3,038人/日となり、目標値5,000人/日を下回り、従前値3,600人/日も下回っているため目標達成度は「×」とする。	-
指標4	令和5年度の駅前広場利用者数を計測した結果、910,490人/年となり、目標値65,000人/年を上回ったため、目標達成度は「○」とする。	-

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

### 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
		単位	基準 年度	基準 年度	基準 年度			
その他の 数値指標1	-	-	-	-	-	モニタリング	-	-
						事後評価		
						見込み	-	-

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

### 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・計画区域内の地価公示調査地点である「あわら5-2」は令和4年から、計画区域外であるが駅に近い「あわら-5」は令和2年から、それまで一貫して減少傾向にあった地価が上昇に転じている。

・北陸新幹線開業に先駆けて令和5年3月19日にオープンした「芦原温泉駅西口賑わい施設アフレア」では、新幹線開業までの間、まちづくりフォーラムやグルメ・スポーツイベントなどを開催し、新幹線開業に向けた市民のまちづくり機運の高揚、駅周辺の賑わいづくりに貢献した。また、新幹線開業後も子どもが対象の、食や音楽等をテーマとしたイベントなど、幅広いイベントを開催し、駅周辺の賑わいや交流の創出に継続的に取り組んでいる。

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
-	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	-	-

### 添付様式3-② 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
芦原温泉駅まちづくりデザイン部会の活動支援を通じて、賑わいホール及び観光案内・魅力体感施設の計画内容等について意見交換を行った。	予定どおり実施した ● 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	R1.5.22(水)・今年度の進め方について R1.6.10(月)・芦原温泉駅まちづくりデザイン部会のこれまでの取組について ・芦原温泉駅周辺まちづくりの概要について R1.6.24(月)・西口駅前広場の利活用の検討について R1.7.29(月)・西口駅前広場(賑わい広場)の平面計画について ・前回部会からの修正検討の進捗報告・意見交換 R1.8.30(金)・西口駅前広場(賑わい広場)の平面計画について(最終報告) ・まちづくり勉強会「市民活動によるまちづくり事例の紹介」 R2.1.30(木)・西口駅前広場(賑わい広場)について(報告事項) R2.8.12(水)・賑わい施設の利活用について R3.1.25(月)・(仮称)賑わい施設イベントについて ※R4.10.19(水)～ アフレア活性化委員会において、アフレアにおける事業の推進や活性化、芦原温泉駅周辺の賑わいと交流の創出等について、意見交換を実施(年3～5回)	民間企業や市民活動団体などが主体となって実施する地域活性化に係る取組を支援する。

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
一般社団法人アフレアは令和4年10月に設立され、芦原温泉駅西口賑わい施設アフレアの施設全体の運営・維持管理を担っている。	予定どおり実施した ● 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	アフレアを核とした駅周辺の賑わいづくりに地域一丸となって取り組んでいる。	一般社団法人アフレア	人々の交流を促し、地域の活気やにぎわいを創出するため、イベントなどを継続的に開催する。
あわら市の賑わい創出や観光活性化などを目的に、アフレアでのイベント企画などを行う「(一社)あわら市まちづくりセンター」が令和4年6月に設立した。	予定どおり実施した ● 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	金津まちなか創成会、(一社)MYNKsなど様々な団体と行政が連携し、アフレアや芦原温泉駅周辺においてイベント等の企画に取り組んでいる。	(一社)あわら市まちづくりセンター	人々の交流を促し、地域の活気やにぎわいを創出するため、イベントなどを継続的に開催する。

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内意見照会の実施	観光振興課、市民協働課、商工労働課、生活環境課、政策広報課	令和6年11月1日～11月15日	建設課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1	指標4
指標名		駅前商店街の空き店舗数	駅前広場利用者数
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路：市道105号線	○	・ワークショップを通じて景観まちづくりガイドラインの改訂を行い、街なみ修景事業を実施したことにより、空き店舗の外観改修費用が補助され、費用負担が減少したことで店舗活用促進に直接的に貢献したと考え「◎」 ・アクセス道路や駅前広場、駐車場などの交通結節点機能が整い、アフレアへのアクセス性が高まったことが間接的に貢献したと考え「○」 ・駅前商店街の店舗の修景や空き店舗の活用、ビジネスホテルの整備が間接的に貢献したと考え「○」
	道路：市道105号線(電線共同溝)	○	
	道路：市道171号線	○	
	道路：市道830号線	○	
	道路：市道170号線	○	
	地域生活基盤施設：西口広場	○	
	地域生活基盤施設：東口広場	○	
	地域生活基盤施設：駅西口駐車場	○	
	地域生活基盤施設：駅西口自転車駐車場	○	
	地域生活基盤施設：駅東口自転車駐車場	○	
	地域生活基盤施設：東西自由通路	○	
	高次都市施設 地域交流センター：賑わいホール	○	
	高次都市施設 観光交流センター：観光案内・魅力体感施設	○	
	優良建築物等整備事業：駅西口エリア(民有地)	○	
街なみ環境整備事業：街なみ修景事業	◎		
提案事業	事業活用調査：事業効果分析	-	
	まちづくり活動推進事業：ワークショップ(駅周辺西口部)	◎	
	まちづくり活動推進事業：まちづくりPR活動	○	
関連事業	北陸新幹線芦原温泉駅舎整備	○	
	自由通路整備	○	

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後も景観補助などによる駅前商店街の空き店舗の解消など、駅周辺の活性化に向けた取組を進める。	アフレアで創出された賑わいが地域一帯に波及するように駅周辺の回遊性向上などに取り組む。
-------	--	---

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2			指標3				
指標名		駅周辺整備に関する満足度			JR芦原温泉駅乗降客数				
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類		
基幹事業	道路:市道105号線	△	・北陸新幹線の開業が1年遅れたことで、期待していた事業効果が発揮できていないが、アフレアやアクセス道路・駅前広場の整備が目に見える形で表れてきたことにより、当初計画時点からの満足度増加に貢献したと考え「△」	Ⅲ	×	・アクセス道路(無電柱化を含む)や駅前広場、駐車場、自由通路などが完成し、交通結節機能が整ったが指標への影響は確認できないため「×」	Ⅲ		
	道路:市道105号線(電線共同溝)	△							
	道路:市道171号線	△							
	道路:市道830号線	△							
	道路:市道170号線	△							
	地域生活基盤施設:西口広場	△							
	地域生活基盤施設:東口広場	△							
	地域生活基盤施設:駅西口駐車場	△							
	地域生活基盤施設:駅西口自転車駐車場	△							
	地域生活基盤施設:駅東口自転車駐車場	△							
	地域生活基盤施設:駅西口自由通路	△							
	高次都市施設 地域交流センター:賑わいホール	△							
	高次都市施設 観光交流センター:観光案内・魅力体感施設	△							
	優良建築物等整備事業:駅西口エリア(民有地)	△							
街なみ環境整備事業:街なみ修景事業	△								
提案事業	事業活用調査:事業効果分析	-			-				
	まちづくり活動推進事業:ワークショップ(駅周辺西口部)	△			-				
	まちづくり活動推進事業:まちづくりPR活動	△			×				
関連事業	北陸新幹線芦原温泉駅舎整備	△			×				
	自由通路整備	△			×				

※目標未達成への影響度

- ××:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △:数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- :事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ:内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ:外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ:外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ:内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	<p>新幹線開業効果を市民が実感できるよう、駅前来訪者の利便性の向上やアフレアでのイベント開催など、駅周辺の活性化に向けて継続的に取り組む。</p>	<p>交通結節点機能の維持・充実を図るとともに、駅周辺の賑わい創出や福井県の北の玄関口としての魅力向上に引き続き取り組む。</p>
------------------	--	---

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内意見照会の実施	観光振興課、市民協働課、商工労働課、生活環境課、政策広報課	令和6年11月1日～11月15日	建設課

##### 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
交通結節点、魅力情報発信の 機能強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芦原温泉駅の乗降客数は、新型コロナウイルス感染症の影響で減少して以降、未だ流行前の水準に戻っていないものの、アクセス道路や東西広場、駐車場、自由通路などが整備され、交通結節点機能が整った。</li> <li>・賑わいホールや観光案内・魅力体感施設を有したアフレアが整備され、魅力情報発信拠点が形成された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アフレアを中心に、駅構内や自由通路などで魅力発信を行っているが、集客や賑わいがアフレア内に留まっており、地域一帯の活性化を図る必要がある。</li> </ul>	-
安心で安全な人にやさしい 街・道路の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクセス道路の改良・整備により、鉄道やバス利用者の利便性が向上し、歩行者に優しい歩行空間が整った。</li> <li>・アフレアを整備したことで、近隣の学生にとって憩いの場が整った。</li> <li>・アクセス道路の無電柱化を実施したことで、道路の防災性能及び快適性が向上した。</li> <li>・自由通路を整備したことで、駅構内の東西の移動が可能となり、駅利用者の利便性が向上した。</li> </ul>	-	-
地域内のコミュニティ活動の 促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(一社)あわら市まちづくりセンターや金津まちなか創成会が設立され、イベントやガイド活動などを通じて賑わいの創出や歴史文化の発信が行われた。</li> <li>・景観まちづくり協議会が活動の一環として花コンテナの整備・管理を継続して行っている。</li> <li>・地域内で行われたワークショップを通じて、景観まちづくりガイドラインの改訂を行い、建物の修景に対する補助金を創設したことにより、空き店舗数の減少につながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・依然として空き店舗は残っており、加えて高齢化などにより建物が空き家・空き店舗になるケースもあることから、それらの利活用に引き続き取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内のまちづくり活動を今以上に発展させていくためには、地域内の住民、商店街及びまちづくり団体などの各コミュニティの連携が必要となる。</li> </ul>

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	(改善策と重複するため、ここでは省略する)	-	-

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策	交通結節点機能の維持・充実	道路や駐車場など交通結節点機能について、適切に維持管理するとともに利用者ニーズに応じて機能強化実施に取り組む。	・道路や駐車場など交通結節点機能の適切な維持管理や利用者ニーズに応じた機能強化
	アフレアを中心とした賑わい・交流の創出	賑わいを創出し、人々の交流を促すため、アフレアを中心として、イベントを継続的に開催する。加え、イベント主催者に対し行政支援を実施する。	・アフレアにおける多様なイベントの開催 ・イベント主催者に対する行政支援
	駅周辺の回遊性の向上	駅周辺の回遊性向上を図るため、歴史等を生かした快適な歩行者空間の創出に取り組む。	・歴史文化拠点である金津本陣IKOSSAまでの景観まちづくり ・竹田川河川公園を活かした歩行者回遊の創出
	あわら市内や周辺地域の観光拠点と連携した広域観光の推進	地域一体の活性化を図るため、観光客に対しMaaS等を活用した広域観光を推進する。	・芦原温泉駅を拠点とした市内観光や広域周遊観光を促す着地型観光・滞在型観光の推進 ・MaaSなど観光客の移動を円滑にする仕組みの検討
	安全安心な都市交通基盤の維持・充実	歩行空間等について、適切に維持管理するとともに利用者ニーズに応じて機能強化実施に取り組む。	・道路や駐車場など交通結節点機能の適切な維持管理や利用者ニーズに応じた機能強化(再掲)
	地元やまちづくり団体など多様な主体による景観まちづくりや賑わい創出の推進	駅周辺の価値を高めるため、修景整備や交流機能の強化を行う。	・まちづくり団体などへの支援の継続 ・街なみ景観整備の継続 ・修景に対する補助の継続
	空き家・空き店舗の利活用の促進	空き家・空き店舗の利活用とともに、居住支援など移住・定住のための施策に取り組む。	・空き家・空き店舗の利活用による移住定住促進に係る行政支援(空き店舗・空き家改修事業補助金など) ・空き家・空き店舗の利活用を通じた地域コミュニティの充実(地域交流拠点としての活用など)
	地域内の商店街やまちづくり団体等の連携強化	民間企業や市民活動団体などが主体となって実施する地域活性化に係る取組を支援する。	・地域内の商店街やまちづくり団体等の連携を促進する仕組みづくり

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。  
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
				年度		年度					予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	駅前商店街の空き店舗数	店	5	H30	3	R5	確定 ●	2	○	あり	-	-	-
指標2	駅周辺整備に関する満足度	%	5	H30	55	R5	確定 ●	10	△	あり ●	-	-	-
指標3	JR芦原温泉駅乗降客数	人/日	3,600	H30	5,000	R5	確定 ●	3,038	×	あり ●	-	-	-
指標4	駅前広場利用者数	人/年	-	-	65,000	R5	確定 ●	910,490	○	あり	-	-	-
その他の数値指標1	-	-	-	-	/		確定 -	-	/	/	-	-	-
							見込み -	-	/	/	-	-	-

## 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	-	予期せぬ外的要因が発生した場合は、モニタリングを行うなどして、計画を見直すことも考えられる。
	うまくいかなかった点	指標2「駅周辺整備に関する満足度」指標3「JR芦原温泉駅乗降客数」は外的要因である新幹線開業が遅れたことを受け、目標達成に至らなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	-	-
	うまくいかなかった点	-	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	-	-
	うまくいかなかった点	-	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	-	-
	うまくいかなかった点	-	
その他	うまくいった点	-	-
	うまくいかなかった点	-	

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

なし

## (5) 事後評価原案の公表

### 添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	あわら市公式ホームページに事後評価原案を掲載	令和7年1月6日 ～令和7年1月20日	令和7年1月6日 ～令和7年1月20日	意見書を直接提出するか、郵送、メールで受け付けた。	建設課
広報掲載・回覧・個別配布	-	-	-		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	-	-	-		

住民の意見	・意見なし				
-------	-------	--	--	--	--

## (6) 評価委員会の審議

### 添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	野嶋慎二 福井大学教授(委員長)	令和7年3月5日	建設課	あわら市都市計画審議会条例	あわら市都市計画審議会
その他の委員	有識者(3名) 関係機関代表(あわら警察署長、三国土木事務所長、坂井農林総合事務所長) あわら市土木部長・理事				

審議事項※1	委員会の意見	
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に書かれた指標の計測方法等に基づき事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・指標2「駅周辺整備に関する満足度」は、目標設定が過大であった。
	実施過程の評価	・特になし
	効果発現要因の整理	・特になし
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案の公表は妥当であると認められた。
	その他	・令和6年度以降も継続して芦原温泉駅乗降客数や駅前広場利用者数を計測していくと良い。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・芦原温泉駅前のグランドデザインを決めていく必要がある
	フォローアップ	・特になし
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・特になし	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

## (7) 有識者からの意見聴取

### 添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
-	-	-

有識者の意見	-
--------	---